

令和元年 10月17 日

清水町議会議長

様

清水町議会議員

深沼達生

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

1 研修名（主催者） 議会広報研修会（北海道町村議会議長会）

2 研修日時 令和元年8月20日（火）

3 研修先 ポールスター札幌

4 研修目的 議会広報の発展に資することを目的とする。

5 成果（具体的に）

議会広報の研修に初めて参加させていただきました。
そこで広報紙はあくまで手段であり広報紙の役割はきっかけの提供である。
広報紙の限界を認識することも大事であり読まれないとその目的すら達成できない。
また一方で読まなくてもなから支障がないのと同じ様に読んでもらえることが大事である。
広報紙作成のポイントとして①目的として役割の徹底
②対象は編者の目線が③デザインには親切な紙面が大事
そこで住民目線にたち読者が理解できなければ意味がない。
だからいかに感心をもって読んでもらうのかであると言う。
またどうゆう事に感心をもっているかを知る事も大事であると言う。
人は期待しているものだけを見て期待していないものは受けつけられず無視される。
そこで住民が期待するものを知って初めてその期待を利用することができると言う。
議会広報紙役割として議会の活動状況を広く住民に情報提供する事。そして住民の声をくみ取り住民と議会の意思疎通を図り議会への関心を高める事が大事であると言う。
編集体制では広報はきっかけで全ては伝えきれない。

そこで住民の関心の高いテーマを取り上げて読むきっかけとして掲載し、座談会や住民インタビューでいろいろな階層の住民を登場させる事がいいと思う。

また住民も知りたい今回の目玉の記事と住民に知って欲しい丁寧な説明が必要である

また図表やグラフなどを用いてわかりやすい記事に仕上げる事も大事だと言う

文章はわかりやすく、ふさわしい日本語を使い、難しい専門用語にはわかりやすく説明する必要がある

文章が長くなると読むのにつかぬるのでその場合は小見出しを書く事によりわかりやすくまた読みやすくなると思う

企画や編集で適切な情報公開を広報紙にのせているか

行政または議会に対する住民の声を掲載しているかで身近な住民が登場していれば読まれるし刺激となるので対話型企画がいいと思う

そもそもなぜ広報紙を読まれないのかについて使っている言葉が難しく分からない。

そして文字が多く版面が堅いと読む気にならないのでつながりが感じられるテーマ素材がないと振り仮名をつけてくれないと言う。

表紙写真は、読者の興味を誘うようなインパクトのある写真となっているかかとでも大事であると思う

その中で子供の写真を表紙にもつくるのもいい事だと言っていました。今回の議会広報研修会を終えて読んでもらえる広報を作るのはとても大変だと思いました。

まだまだわからない事はありますが、市民に読んでもらえる議会広報紙を作っていくだと思っております。

2019年8月21日

清水町議会議長 加来良明 様

清水町議会議員 川上 均

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 北海道町村議会議長会
- 2 研修日時 2019年8月20日
- 3 研修先 ポールスター札幌
- 4 研修目的 町村議会議員議会広報研修
- 5 成果（具体的に）

【成 果】

I部では広報誌作成の基本的なことについて学んだ。

具体的には、講師から何回も「課題」を明らかにしながら、この「課題観」をどう住民と共有するか指摘があり、質問する議員の基本をまずしっかりすることが前提と理解した。

次に、広報誌はあくまでも手段であり、広報の役割に徹することと、役割とは、あくまでもきっかけの提供であること。その中で、広報誌の限界を認識し、あらゆるものを詰め込まず、選択して集中することが大切で、逆説的にはいかに捨てるかが大切であることも学んだ。

また、「編集体制」を整備し、取材から編集まで議員が参画する編集体制をつくることとあり、今は事務局による作成業務全般を、今後この編集体制づくりに発展させ、分業していく事が課題であり、良い広報誌づくりには欠かせないと感じた。

具体的作成では、住民の関心の高いテーマがやはり読むきっかけとなり、要約を掲載し続きは「Web」を活用したり、いずれは議会傍聴へと誘導する方法も学んだ。

改めて広報誌の役割とは、行政広報のように政策・計画の執行のお知らせではなく、あくまでも政策決定までの形成過程の住民周知であること、また、ただ知らせることだけではなく、「語り部」を変えて住民に言ってもらうこともわかりやすく、読まれやすいというのも参考になった。

さらに、ターゲットを絞りながらその「マイターゲット」を思い描いて質問項目を選択するなどの手法もあることを学んだ。

II部では、実際に発行された広報誌を題材に、具体的な「タイトル」「リード」「小見出し」で内容がすぐ理解できるものとしての親切的紙面づくりについて学び、非常に参考になった。

全体を通して、まずは質問内容から見直し、「課題観」を住民と共有する事が重要であるという議員としての基本事項が学べ、非常に有意義な研修会であった。

【要 旨】

I部 「読者目線で親切的広報誌を作るには」豊田健一氏（『月刊総務』編集長）

◎広報誌はあくまでも手段である

- ・全体の目的の中での役割に徹する
- ・広報誌の役割は、きっかけの提供
- ・作品作りに徹すると、その役割を見失う

この場合、広報誌の限界を認識する～あらゆるものを詰め込まず、選択して集中する（いかに捨てるかが大事～詰め込み過ぎると「要約」ばかりで理解不可となる。）

◎理想と現実のギャップ～「課題観」をどう住民と共有するか（繋がり）

→この「課題観」をすべての前提と位置付ける

→繋がり感をどう出すか～自分の思いをぶつける（「課題」を明らかにして質問する）

（親切的紙面～住民の言葉に落とし込む「大工と話すときは、大工の言葉を使え」）

◎コミュニケーションは「期待」である。

→住民が課題と考えていることをどう見つけて発するか。期待にどう答えるか。

◎コミュニケーションは「要求」である。

→それが受け手の価値観・要求・目的に叶うと強力になる。逆は無視か抵抗される。

◎議会広報誌の役割～住民と議会との架け橋であり、議会への関心を高める。

→「広聴」とは広く住民の声を聞くこと

◎「編集体制」を整備し、取材から編集まで議員が参画する編集体制をつくる

- ・住民の関心の高いテーマは読むきっかけとなる
- ・要約を掲載し、続きは「Web」を活用することも可能
- ・議会傍聴へと誘導する

◎広報誌の役割

- ・行政広報：政策・計画の執行
- ・議会広報：政策決定までの形成過程

◎「語り部」を変えて住民に言ってもらいたいこともわかりやすく、読まれやすい

（例）予算は「こうなります」ではなく、住民に「こうなるんですね」と言ってもらい

→「原稿」の段階で住民がどう受け取るか、住民に読んでもらう

◎各企画の段階で何がしたいのか

- ・知ってもらいたい：定例会・予算額・審議等
- ・理解してもらいたい：一般質問の内容等
- ・共感してもらいたい：議員の想いとその活動
- ・行動してもらいたい：共に住みよい地域をつくる

◎読まれる紙面づくり→繋がりが感じられるテーマ、素材がないと振り向いてもらえない

- ・読みたくなる内容：繋がりを感ずる内容
- ・読みたくなる切り口：関心ごとから取り上げる
- ・読みたくなる見せ方：読みやすい、親切的なデザイン

◎「で？」に答える内容

- 質疑内容、審議結果と実生活との繋がりは
- 質問内容の住民への影響とは
- 予算が執行されると、どのような影響があるのか
- 常任委員は、住民の生活の何を向上させようとしているか
- なぜ、そのような質問をしているか
- その視察研修は、何を意図してされているか

◎「マイターゲット」を思い描き、練り込む

- 誰をターゲットにして質問するか

◎そもそも親切的紙面とは

- 「タイトル」「リード」「小見出し」で内容がすぐ理解できるもの

Ⅱ部 議会広報クリニック

- ◎すでに発行された広報誌を題材に添削作業する。

令和元年 8 月 30 日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会議員 山下清美



研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 議会広報研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和元年8月20日
- 3 研修先 ポールスター札幌
- 4 研修目的 議会広報の発展に資することを目的とする。
- 5 成果（具体的に）
講師 「月刊総務」編集長 豊田健一氏

読者目線で親切的な広報誌を作るには

～手に取られ、読まれ、行動に結びつけるには～

- ・移住者が手にして読もうとしてくれるか？
- ・編集技術よりも、どのようなものを伝えるか？

一番お伝えしたいことは

広報誌はあくまでも手段 広報誌の役割はきっかけを提供すること

1 ページでいいから課題に気付いてもらうページが欲しい

作品作りにハマってしまうと読者とかい離してしまう

コミュニティーの中の広報誌

住民参加の繋がりを伝える 繋がりを感ずると読む

議員の本音を伝えることできっかけを提供できる

広報誌作成のポイント

目的 : 役割の徹底

対象 : 読者の目線

デザイン : 親切的な紙面

議会と町民とのコミュニケーション

知覚：受け手がいなければ成立しない⇒住民目線の言葉を使う

期待：期待しているものだけ受け入れる⇒町民が課題ととらえているか

要求：受け手に何かを求める⇒住民の価値観、要求に合致すると動く

広報誌の役割：住民と議会の架け橋

⇒議会への関心を高める

- ・議会の活動状況を広く町民に提供する
- ・町民の声をくみ取り、町民と議会の意思疎通を図る

基準：議会への興味を持てる内容か？

住民の関心に応える企画か？

議会広報の編集体制

- ・取材から編集まで議員が参画しているか？
- ・広報から次のメディア（HP）に繋がっているか？
- ・住民の声（モニター、アドバイザー等）を編集に反映させているか？

議会広報の記事内容・企画

- ・配置、流れは、時系列で展開されているか？
- ・しっかり理解してほしい内容は懇切丁寧に解説する。
- ・リード文は重要⇒スルーされないよう記事を読みたくなる文にする。
- ・町民の関心事を知ることで、町民が繋がりを感じる内容載せる。
- ・町民にわかりやすく伝わる内容か？
- ・議員の活動が、町民のためあることの理解と共感
- ・拡散力、密着力、向上力のある人をターゲットとしても良いのでは？
- ・ターゲットと「同じ世代等」を登場させる。⇒拡散していく。
- ・小見出しは、本文のキーワードとなるものを強調する。
- ・図表やグラフを使うとわかりやすくなる。
- ・役所言葉は使わない。

最後に

町民目線により、読まれて、町民の行動につながる広報を目指したい。

令和元年 8月 30日

清水町議会議長

様

清水町議会議員 中河 つる子

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 議会広報研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和元年8月20日（火）
- 3 研修先 ポールスター札幌
- 4 研修目的 議会広報の発展に資することを目的とする。
- 5 成果（具体的に）

読者目線で親切な広報誌を作るには

一、「手に取られ、読まれ、行動に誘われるには」
「月刊総務」編集長 豊田 健一氏

1. 一番は広報誌はあくまでも手段である。

・全体9月目的の中で役割を分散する

2. 広報誌の限界の認識

・印刷物という物理的な制約

・読まれないと、その目的は達成しない

3. コミュニティの中の広報誌

・人はつなかりを感ずると読もうとする。

・受け手の知覚能力の範囲内が受けとめる事ができる

・人は期待しているものを知覚する。

期待するものを知って、初めてその期待も利用出来る事ができる。

4. コミュニケーションは受け手に何かを要求する。

それが受け手の価値観、要求目的に合致する時、
影響力となる。

- 私がこれから新聞誌を作る上での目標
- 住民の立場に立って編集されているか
 - 議会への興味を示す内容か
 - 住民の関心と惹く企画であるか

令和元年 8月21日

清水町議会議長

様

清水町議会議員

佐藤 幸

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 議会広報研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和元年8月20日（火）
- 3 研修先 ポールスター札幌
- 4 研修目的 議会広報の発展に資することを目的とする。
- 5 成果（具体的に）

読者目線での親切な広報誌を作りたい。
～手を取られ、読まれ、行動に結びつけたい～

広報紙はあくまでも手段である
全体の目的の中の役割に徹する
広報紙の役割はきつかけの提供
作品作りに徹すると、その役割を見失う

広報紙の限界を認識する
印刷物という、物理的な制約
読まれたいと、その目的が達成出来ない
一方で、読まなくてもなんの支障ない

2区2区の中での広報紙
2区2区が大きい場合はなるべく結び付きが希薄化
人は繋がりを感ずると読むとする
何を言うかではなく、誰が言うかが大事

*2区2区：同じ地域に居住して利害を共にし、政治、経済、慣習

字において、深く結びついている人々の集いのこと

広報紙作成の本質

- 目的 役割の徹底
- 対象 読者の自覚
- デザイン 親切な紙面

ドロッカー：コミュニケーションは知覚である
 無人の山中で木が倒れるとき、音はするか？
 否。誰も聞かなければ、音は無い。

- ・ 聞こえるものがないければ、コミュニケーションは成立しない
 コミュニケーションを成立させるものは、受け手である
 コミュニケーションを発するものではない。

「大工と話すときは、大工の言葉を使う」
 受け手の知覚能力の範囲内か、受け止めることが出来るか。

ドロッカー：コミュニケーションは「期待」である
 人は期待しているものだけを知覚する

期待していないものは受けつけられないことさえない
 見えもしなければ、聞かぬしな。無視される
 受け手が期待しているものだけを知ることなく
 コミュニケーションも行うことは出来ない

期待するものを知って
 初めてその期待を利用することが出来る

ドロッカー：コミュニケーションは「要求」である
 コミュニケーションは受け手に何かを要求する
 それが受け手の価値観、要求目的に合致する時、強力となる
 逆にそれらのものに合致しない時、矛をこ受けつけられず、抵抗される

議会広報紙の役割

- 広報機能、議会の活動状況を広く住民に情報提供する
- 広聴機能、住民の声をくみ取り、住民と議会の意思疎通を図る
- 議会広報紙の役割：住民と議会の架け橋
 → 議会への関心を高めること。

審査基準: 住民の立場に立って編習されているか

- ・ 議会への興味を示す内容であるか
- ・ 住民の関心に応える企画であるか

広報とは「組織と社会との望ましい関係づくり」

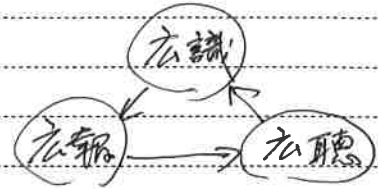
地域・住民に対するもの: コミュニティ・リレーションズ

広報紙の発行目的: 住民と議会との良好な関係づくり

住民が、議会への関心を高め議会に参加し、議会と共に
より良い地域社会を作っていく

★ コミュニティ・リレーションズは4年1回更新される

→ 住民目線に立った編習



ドクター「コミュニティ・リレーションズとは、思想、意見、情報を伝達し合い
心を通じ合わせるプロセス」

1. 「編習体制」

・ 取材から編集まで、議会が参加する編集体制になっているか

企画立案と取材、原稿執筆に思いを込める

住民目線を常に意識する、誰が読むのかを意識する

議会閉会から広報紙発行まで適切な所要日数か

条例会などに発行しているか

臨時会に対応するための工夫(臨時号等)をしているか

議会広報委員会等の設置については条例などに基づいているか

編集方針や技術を引き継ぐためのマニュアルなどがあるか

・ 全ての住民に公平に配布されているか。HPへの掲載や公共施設
などに配布するなどして住民以外にも公開しているか

★ 広報紙はさっかや、全ては伝えたい、伝えたいはしない

・ 住民の関心の高いテーマを取り上げ、読むさっかやとする

要約を掲載し、詳細を知りたい場合は「続きはWebへ」

臨場感を醸し出しリアルな場、議会傍聴へと誘導

行政広報との住み分け、メディアミックス

行政広報: 政策、計画の執行に関する広報

議会広報: 政策決定までの形成過程の広報

★ 双方を読むことでさらに理解が進むような補完関係

1. 編集体制

- ・住民の声を編集に反映させるための工夫
(モニタ、アドバイザー、写真提供者等)があるか
- ・住民の参加、巻き込み(住民のニーズの把握)
- ・モニタ、アドバイザー、通信委員、編集委員
- ・住民の登場、関係作り
読者のために、その階層を登場させる、表紙に登場
子育て×議会、社会人一年生×議会
語り部を委嘱、住民に語り部
座談会、住民インタビュー、いろいろな階層の住民が登場

2. 企画・編集

- ・記事内容、配置、流れ、情報量が住民ニーズと合致しているか
- 記事内容: 住民の関心事、住民に知っておくべき事
- 配置・流れ: 頁展開、時系列の展開、読者を迷わせない
- 情報量: 広報紙の位置づけ、内容の位置づけ
 - ・しっかりと理解に欲しい内容は丁寧に解説
 - ・要約を掲載し、概略を知りたい内容、詳細はWebへ
 - ・特に住民の関心の高い内容を掲載し、紙面に引き込む
- ★ 全てに掲載する必要はない、掲載出来ない、役割の再認識

記事内容の分解 住民に知れ欲しい丁寧に解説 (関心小)	影響大 住民に知れたいもの、今号の目玉 (関心大)
Webのみ掲載	紙面ではちよ見せ Web誘導のついで 影響小

[各企画で何がしたいのか?]

- 知ってもらいたい → 案例会、予算額、審議のこと等
- 理解してもらいたい → 一般質問の内容、視察のこと等
- 共感してもらいたい → 議員の思い、その活動
- 行動してもらいたい → ともに住みよい地域をつくる

読後感を設け、読後感に合った編集を行い → 情報量
ドゥッカー「エニエケラコは要求である」

意志、意図、思いが明確であることエニエケラコは不成立、
カードの重要性

この企画は何をしたいのか、どのように読んで欲しいのか、読めば
分かるは不親切、そもそも読みなしで困らないから

[それでも、なぜ読まれないのか?]

- 使っている言葉が難かしい → ところどころ、分からない
- 文章が多く読面が堅い → 読む気がならない
- つながりが感じられない → 自分とは関係ない
- ★ つながりが感じられる子マ、素材がないと振り向くべからぬ

- ① 読みたくなる内容 繋がりを感ずける内容
- ② 読みたくなる切り口 関心事から取り上げる
- ③ 読みたくなる見せ方 読み易い、親切なデザイン

★ 住民の関心事を知らなければ、振り向かすことができない

- ・ 単に案例会の報告ではなく、議会の機能(行政の事業、施策、計画
に対する評価、点検、提言、政策立案機能等)や関会中の活
動(調査、研究、広聴活動等)が、住民にわかりやすく伝わる内容
になっているか
- ・ 議事公開の原則に徹しているか(議案、賛否結果を含む)
- ・ 委員会(所管事務調査を含む)報告が適切に行われているか
- ・ 一般質問について登壇者ごとに質問項目及び答弁の内

答を適切に掲載しているか

- ・請願、事情について、請願(陳情)者名、趣旨、請願にあつては、紹介議員の氏名、討論の内容、賛否結果等をわかりやすく掲載しているか

★住民に分かりやすい

→住民、自分自身との関係性。用語、言葉の丁寧な説明

【「で？」】に添える内容

質疑内容、審議結果と実生活との繋がりとは?

質問内容の住民への影響とは?

予算が執行されると、どのような影響がある?

★読みやすさだけでなく、関係性が理解できる内容とする

常任委員は住民の生活の何を向としてしている?

なぜこのような質問をしているの?

その視座研修は、何を意図しているの?

★議員の活動は、住民のために行っているという理解と共感

【変革の伝え方】

変革の大局的な意味を伝える

なぜ変革が必要があるのか

その変革の目的は何か

どのくらいの重要性が高いのか

そして、住民にとっての意味を伝える

変革が住民にとってどんな意味があるのか、変革しないことによって

住民自身にどのような影響があるのか、変革することによって

住民自身にどのような影響があるのか

参考：人はなぜ読むのか

積極的な読読関心……情報として積極的に吸収しよう

・実用性……仕事に役に立つ

・実益性……生活に役に立つ

- ・簡明性 …… 手軽に知りたい
- ・話題性 …… 話題を豊富にしたい
- ・判断性 …… 物事の判断、参考にしたい
- ・社会性 …… 世の中をよくするのに役に立つ
- ・速報性 …… 出来事を早く知りたい
- ・教養性 …… 教養を高めたい
- ・欲知性 …… 知識も多く身につけたい
- ・詳報性 …… 出来事を詳しく知りたい
- 消極的な閱讀関心 …… 防衛的な意味合いが強い
- ・連帯性 …… 仲間はずれになりたくない
- ・娯楽性 …… 楽しみたい
- ・逃避性 …… 暇つぶしに読む
- ・意外性 …… なにが面白いのか
- ・代弁性 …… 自分の言いたいことを誰かが書いてほしいか
- ・身近性 …… 自分、身近な知人のことが出ている

・適切な情報公開(政務活動費、議長交際費、議員の公費状況など)を広報紙としてしているか

→ 金もオカシニする態度への信頼感

議会報告会、休日、夜間議会、模擬議会などの報告記事を掲載しているか

→ 情報の網羅性の安心感

・議会(委員会)傍聴、議会報告会への参加など住民参画に向けた呼びかけを行っているか。

→ 懇切丁寧な参加の呼びかけ

→ 参加する住民側のメリット

→ 参加した住民の感想、認知部を変える

・行政側は議会に対する住民の声を掲載しているか。またそれ

「答えるような企画はあるのか」

→ 身近な住民が登場していれば、読まれる、刺激となる

→ 対話型企画、一方通行ではない、双方型企画

→ 一緒に地域を良くしたいという姿勢への共感と信頼感

・ハズレ数、情報量が議会を報じるに適しているか

→ 発行目的、企画意図が達成されるかどうか

・工夫を凝らした特集記事(企画記事、連載記事)を掲載しているか

→ 特約住民、知りたい内容、丁寧な解説、用語、背景

「ターゲットとの情報格差を知っているか？」

興味関心、価値観、情報量、前提知識、特に「温度差」が異なること、議会、議員、常任委員、請願、陳情、一般質問とは

ドロッカー「コミニケーションは知覚である」

相手と自分の「差」を認識する、相手を知り相手自身で伝える

★ ターゲットを定めること振れ向かす、読める、伝わる

★ 企画を考へる時は「ライター」を思い描き、練り込む

ドロッカー「コミニケーションは期待である」

人は見た事が見ず、聞かぬことしか聞かぬ

「そもそも誰をターゲットとすべきなのか？」

★ インフルエンサーを起票に拡散情報発信してもらう

- ① 拡散力
 - ② 密着力
 - ③ 向き力
- 例示: 30代・40代の子育て世代の女性

住民の関心は低いから、知ってもらいたい内容

「そもそもインフルエンサーの記憶に残るかは？」

- ★ 自己投影であるストーリーリングで共感と感動
- ★ コミュニケーションは情報ではない
- ★ ストーリードゥアは引き出す、取材力の向上が必須

[当事者意識を持ち読んでもらうには?]

- ★ スタートと同じOJを登場させ、事象と事柄を語るもらう
- ★ 登場効果 > 読者効果。本人、家族、知人は読み抜く
- ★ 取材の場が、強力なコミュニケーションの場

3. [編集デザイン] 親かな紙面

関心の高い内容、関心を持ち切る切り口から入る

関心の高い言葉を夕出し、小見出し

トツ記事が12ページの編集にある

見開きに最も関心を持ち切る切り口から入る

関心の高い言葉を夕出し、小見出し

読み易い紙面レイアウト (文字サイズ、文字間、行間、段組)

見出し、リード、写真) になっているか

読み易いは、親かな紙面

何が書かれているのかが分かる、迷わない紙面

夕出し、リード、大見出し、小見出し、キャプション

記事の内容が想像できる、メッセジ性、読みたくなるのを表現、リードは、読者を先導する役割。

問いかけやメッセジをこぼす、読者がハッと気づける言葉を入れる

人間の目線の動きを、右エから上下を繰り返して左方向へ移

つゆく、目線を楽にしてあげるレイアウトが読み易い紙面

構成

死角となる部分には、写真やイラスト、図版などの四角いものを置く

と良い。

タイトルの付け方

1. "自分の伝えたいこと"が一目でわかる
2. タイトルと記事の内容が一致している
3. 具体的な数字が入っている
4. 簡単に成果が得られることがわかる
5. 読者が実際に使う言葉が入っている
6. 簡潔で短いものになっている

必要性、緊急性、不安、トレンド、知名度の確認

編集デザイン

- 図表やグラフが主役ではない、本文を補完するもの

図表やグラフは説明をつける

写真と数字の間の関係は的確か、……写真や図表等には説明文・見出し等の説明はしない、グラフ・マップの情報が必要、数字は読みやすい。

字体、色使い、視覚的効果のバランスが優れているか

色は使いすぎない、色名の確認、人物の顔色の確認、血色良く
(清水議会広報では、色刷)

余白、ヘッダー、フッターの使い方の効果

見開きページの活用方法、奥付は的確か

言語・文章

わかり易く、ふさわしい日本語(語彙、文法、言い回し等)を使っているか、専門用語に注釈などの手当は、

分野ごとにばの言い換えを案行しているか

住民目線、丁寧な解説

要約しすぎると分からなくなる

要約に多数掲載おか、一つは総り詳に掲載するのかが
具体的で、的確な見出しを付けているか

誰にとって的確かを考える

数字の表記が適切か、

位が大きすぎるとイーゼしづらい

単位に置き換えるところなのか

漢字、送り仮名、仮名遣いは標準表記となっているか

(記者ハンドブック)共同通信社の採用

正確な文章表記や表記の揺れの防止などを目的に編集されている

- 改行、段落、句読点などの使い方が正しいか
- 文字全体の統一がされているか
- 誤字、脱字、不適切な表現(差別表現等)はないか

表紙写真

表現力豊かな写真(人物の表情等)となっているか

瞬間を切り取る、瞬間の表情

写真の構成がしっかりしているか

読者の興味を誘うおなじみのインパクトのある写真となっているか

今号のテーマとの繋がりを感ぜさせる

写真の味づけは必要

写真の説明、表紙に掲載、頁も掲載して誘導

表紙運動企画、表紙から企画が始まっている

表紙写真と文章情報(題名、号数表記、コピー等)

とのバランスが適切か

以上、議会広報研修会の報告とさせていただきます

別記様式（第6条関係）

令和元年 9月 4日

清水町議会議長

様

清水町議会議員

中島里司

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 議会広報研修会（北海道町村議会議長会）
- 2 研修日時 令和元年8月20日（火）
- 3 研修先 ポールスター札幌
- 4 研修目的 議会広報の発展に資することを目的とする。
- 5 成果（具体的に）
 - ・ 読者目線での親切な広報誌を作るには、講師が資料を幅広く用意していただいたが、理解するのに難かしさがあつた。タイトル、リード、小見出しで内容がすぐ理解できる、文章表現を工夫しなくてはならない。